

2026年2月24日

収蔵品展「川越し大解剖！」 ～大井川に残る江戸からのメッセージ～

【ここがニュース！】

展示概要／島田市では現在、150年ぶりに川会所を移築する事業を実施しており、この重要な取り組みに関連して、江戸時代の街道交通にまつわる貴重な遺産を紹介する収蔵品展を開催します。川会所は、大井川を渡る際の交通を支えた要所であり、安政3年(1856年)に建築された鬼瓦やその他の調査成果を今回新たに解説します。また、この川会所は、島田宿や金谷宿の文化的発展と密接に関わっており、全国的にも類を見ない、江戸時代の徒渉制による川越文化の中心的存在です。展示では、島田市文化財保存活用地域計画の関連文化財のストーリーのひとつとしている「川越の鼓動、宿場の賑わい」をテーマに、大井川と街道交通の歴史を掘り下げます。具体的には、川越制度や川留文化、さらには出土遺物を通じて江戸時代の地域文化を紐解きます。

- ・開催期間／2026年4月4日(土)～6月14日(日)9:00～17:00(最終受付時間16:30)
※月曜休館(月曜が祝日の場合、開館。翌平日休館)
- ・場所／島田市博物館本館 特別展示室(2階)※島田河原一丁目5-50
- ・観覧料／一般300円、団体(20人以上)240円、中学生以下・障害者手帳を持つ人と介助者1人は無料(要証明)
※5月5日(火・祝)は、無料開放日

【開催イベント】

- ①博物館講座「川会所が語る大井川川越しの歴史」(要予約)
 - ・開催時間／2026年5月24日(日)13:30～15:00(13:00より受付開始)
 - ・場所／島田市博物館本館 講座室
 - ・講師／佐藤 正知 氏(さとう まさと) (元文化庁記念物課主任文化財調査官、島田宿大井川川越遺跡整備委員会委員長)
 - ・定員／30名
 - ・対象／中学生以上
 - ・料金／300円
 - ・申し込み／電子申請、または本館受付にて直接申し込み。(4月24日(金)より先着順)
※1申し込みにつき3名様まで可能。
●電子申請の場合は、島田市博物館公式ホームページよりお申込みください

- ②ギャラリートーク「暴れ川大井川は何を生んだ？」
 - ・開催時間／5月5日(火・祝) 10:30～、13:00～
 - ・場所／島田市博物館本館 特別展示室
 - ・講師／当館学芸員
 - ・対象／どなたでも(20名程度)
 - ・料金／無料
 - ・申し込み不要、当日そのまま特別展示室までお越しください。

とき

2026年4月4日(土)～2026年6月14日(日) 09:00～17:00

ところ

島田市博物館 本館 特別展示室

詳細

- 参加者:どなたでも
- 取材対応:月曜日を除く、平日に対応可能です。(9:00～17:00) 主担当に取材希望の場合、事前にご連絡ください。
土日祝に取材希望の場合は事前にご相談ください。
- 報道駐車場:博物館前の駐車場をお使いください。

取材のポイント

- ・島田市文化財保存活用地域計画とは
島田市内の文化財を保存・活用するため、島田市が今後市民の皆様と共に実施する計画や方針をまとめたものです。
島田宿大井川川越遺跡も、地域計画に則り史跡の整備やイベント活用などを図ります。
- ・初公開！川会所の鬼瓦の展示
川会所は江戸時代に大井川で行われていた「川越し」にて、大井川を渡るチケットの発行や川越人足(川越しに従事した人々)の管理などを行なった施設で、今年でちょうど築170年になります(1856(安政3)年築)。川越しが実施された東海道の他の河川にも川会所は置かれていましたが、明治以降全て消失してしまいました。そのため島田に残る川会所は、日本で唯一残る「川越しに実際に使用された歴史的建造物」です。本展では「島田に残る川会所が1856(安政3)年に建てられたこと」や担当した江戸時代の大工の名前が刻まれている鬼瓦を展示します。
- ・島田宿の時計師が製作した和時計、210年ぶりの里帰り！！
文化12(1815)年に島田宿の時計師大武清之助が製作した和時計(台時計)を初公開します。本年度、東京在住の和時計コレクターから市に寄贈を受けたものです。
大武氏は、江戸から京都への旅の途中で大井川の川留めに遭い島田宿に逗留し、そのまま在住し時計師として活躍しています。そのエピソードも含めて紹介します。

私が担当者です:島田市 観光文化係 博物館課 博物館係
電話:0547-34-3216・0547-37-1000 FAX:0547-37-8900
当日の担当者:博物館課 博物館係 直通電話(携帯など):0547-34-3216(博物館分館)
担当者からの一言:今年川会所が建築されてちょうど170年。ぜひ大井川が育んだ豊かな文化財、川越文化等に触れてみてください。